

## 小笠原と奄美大島海域から採集された日本初記録の ニセヘビギンボ属 *Norfolkia* (ヘビギンボ科) 魚類

林 公義\*

First record of trypterygiid fishes of the genus *Norfolkia* (Trypterygiidae)  
from Japan, in the waters of the Ogasawara and Amami Islands

HAYASHI M.\*

In 1991 and 1994, an unrecorded species of the trypterygiid genus *Norfolkia* was collected from the Ogasawara (Bonin) Islands and Amami Islands, including Kakeroma Island. In the present paper, this *Norfolkia* and *N. thomasi* are recorded as new to Japan. There are four Indo-Western Pacific species in this genus, *N. brachylepis* and *N. thomasi* of which are redescribed here from the coastal waters of Japan. Many specimens of *N. thomasi* were found in coral reef areas, at depth of 4-7 m, and in the intertidal pools. In rather, rare species of *N. brachylepis* from Japan was only found in the coral caves, at depth of 10-15 m. Most characteristic features of *N. thomasi* include the pointed head, the pale anal fin with basal to distal nine dark bars, the distal dark streak in the first dorsal fin and the 11-13+23-26 lateral line scales. *N. brachylepis* is compared with the closely related *N. thomasi*; its differs from *N. thomasi* in the blunt snout (pointed in *N. thomasi*), the 16-18 soft anal rays (20-21 in *N. thomasi*), a distal black blotch on the second membrane of the first dorsal fin (the distal dark streak form in *N. thomasi*), fringed both of nostril flap and supraorbital tentacle (no fringed in *N. thomasi*), the body and anal fin colouration (body bands discontinuous and anal fin pale, with strictly nine bars in *N. thomasi*).

### はじめに

林(1993)は、小笠原諸島や奄美大島を含む琉球列島から採集された *Trypterygion brachylepis* SCHLUTZ, 1960 ニセヘビギンボを、SCHLUTZ (1960) に従いヒメギンボ属 *Trypterygion* に帰属させ、日本初記録種として報告した。

近年、FRICKE (1994) はオーストラリア・ニューゼalandおよび南西太平洋海域産のヘビギンボ科魚類22属70種を報告し、*T. brachylepis* を *Norfolkia* FOWLER, 1953 に帰属させ、*brachylepis* をふくめてこの属に4種を認めた。また SHEN & WU (1994) は台湾産ヘビギンボ

科魚類6属14種を報告し、FRICKE (1994) と同様に *T. brachylepis* を *Norfolkia* に帰属させている。これらの見解は HOLLEMAN (1991) による *Norfolkia* の再検討に従ったものと考えられる。

著者は、今回 FRICKE (1994), SHEN & WU (1994), HOLLEMAN (1991) を参考にして、従来小笠原諸島や奄美大島を含む琉球列島から採集された *T. brachylepis* と同定されていた標本を精査した。その結果、*T. brachylepis* は *Norfolkia* に帰属させるべきであること、そして *T. brachylepis* と同定されていた標本中には外観が類似する同属の *N. thomasi* WHITLEY が混同されていることが判明した。本報告では *T. thomasi* を日本初記

\* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

原稿受付 1995年9月20日 横須賀市博物館業績 第476号.

キーワード: 初記録, 小笠原, 奄美大島, ニセヘビギンボ属, ヘビギンボ科 Key words: new record, Ogasawara, Amami-Ooshima, *Norfolkia*, Trypterygiidae

録種として報告し、さらにこれまで日本産の標本に基づく詳細な記載のなかった *T. brachylepis* を再記載し、両種の比較を行った。

計数・計測方法は HOLLEMAN (1911) と FRICKE (1994) に従い、性徴と泌尿生殖突起の形態観察は 富山 (1950; 1951) を参考にした。各計数計測値の後の ( ) 中には、FRICKE (1994) の示した両種の計数值範囲を比較のために示した。下顎感覚管の開孔の観察は HANSEN (1986) に従い、表示式は FRICKE (1994) に従った。骨学的形質の特徴は軟X線写真で観察できるものにとどめた。生時の体色の記載は日本で採集された資料による水槽内観察と鮮時の標本写真に基づき行った。固定後の体色と全計測値は70%エチルアルコールに保存した標本によるものである。

本稿を進めるにあたり、採集に協力いただいた大島郡瀬戸内町の横山貞夫氏、相模湾海洋生物研究会の諸氏、東京大学三崎臨海実験所の佐藤寅夫氏、鹿島建設株式会社業山水産研究所の萩原清司氏、比較標本の検討を許可された琉球大学海洋学部の吉野哲夫氏、兵庫県立尼崎北高等学校の鈴木寿之氏、大阪市立自然史博物館の波戸岡清峰氏、原稿を校閲して下さった神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏に対し深謝する。

### Genus *Norfolkia*

#### ニセヘビギンポ属：新称, *Nisehebiginpo*

*Norfolkia* FOWLER, 1953: 262 (type species: *N. lairdi* FOWLER, 1953, by original designation); ROSENBLATT, 1959: 195; WHITLEY, 1964: 192; CLARK, 1979: 94; FRICKE 1991: 340; HOLLEMAN, 1991: 227; FRICKE, 1994: 461; SHEN and WU, 1994: 23.

本報で使用した標本に基づけば、ニセヘビギンポ属は後頭部、頬部、鰓蓋部、胸鰭基部、腹部、肛門域などに細かな円鱗を被る。体全体は比較的頑丈な櫛鱗で覆われる。眼上皮弁があり、平たくて大きく明瞭。前鼻孔は管状で先端に細長い皮弁があり、後方に倒すと後鼻孔の前縁に届く。体側の側線は不連続、前上方は有孔側線鱗で11~16枚、後下方は後縁中央が欠刻する側線鱗(以下欠刻側線鱗)で18~26枚、全側線鱗数は30~38。第1背鰭は4棘、第2背鰭は13~15棘、第3背鰭は9~10軟条。臀鰭棘は2本で、軟条数は18~21。腹鰭は1棘2軟条。胸鰭の分節軟条は12~17で、先端は分枝するが上方の2~4本と下方の5~8本は不分枝。尾鰭の分節軟条は6~7+5~6。脊椎骨は11+25~26。尾鰭骨はよく発達

し、上尾骨は2枚、下尾骨は5枚で大きい。

**備考**：ニセヘビギンポ属 *Norfolkia* に外観が類似するものに *Ceratobregma* があるが、頭部に鱗が少ないこと (*Norfolkia* は非常に多い)、眼前部(側節骨の部位)が膨出し、雄ではそこに小突起があること (*Norfolkia* の側節骨部は円滑)などで区別できる。*Ceratobregma* 属は西部太平洋とウェスタンオーストラリアに3種が分布するが (FRICKE, 1994)、日本周辺海域からの報告はない。またカリフォルニア半島やメキシコに分布する *Eneanectes* ととも体側や鰭の斑紋様式が類似するが、頭部や胸鰭基部、腹面から肛門部位にかけてはそれぞれ無鱗であることで *Norfolkia* とは区別される。

本属には和名が与えられていないため、*N. brachylepis* (SCHULTZ) を基準として新和名ニセヘビギンポ属を提唱する。

#### *Norfolkia thomasi* WHITLEY, 1964

ブチニセヘビギンポ：新称, *Buchi-nisehebiginpo*  
(Fig. 1a, b)

*Norfolkia thomasi* WHITLEY, 1964: 192 (type loc. Heron Is., Australia; RANDALL et al., 1990: 32 (Rapa Is.); HOLLEMAN, 1991: 238, fig. 8 (southern Queensland, Fiji, Cook and Society Island etc.); FRICKE, 1994: 476, fig. 108 (western Australia, New Caledonia, Loyalty Isls., Fiji).

**材料**：YCM-P (横須賀市自然博物館魚類資料)25357 (1個体, 雌, 体長30.8mm), 採集日19910313, 東京都小笠原村, 母島北港, 林 公義・萩原清司採集; YCM-P26174 (1個体, 雄, 30.1mm), 19910827, 鹿児島県大島郡(奄美大島)瀬戸内町崎ノ目, 奄美大島調査団; YCM-P28048 (1個体, 雌, 28.4mm), 19920825, 鹿児島県大島郡(奄美大島)瀬戸内町阿鉄, 奄美大島調査団; YCM-P26472 (1個体, 雄, 30.0mm), 19910830, 鹿児島県大島郡(加計呂麻島)知ノ浦, 奄美大島調査団; YCM-P34132 (1個体, 雄, 31.3mm), 19940828, 鹿児島県大島郡(加計呂麻島)浜崎, 奄美大島調査団。

**参考標本**：鹿児島県大島郡(奄美大島)：YCM-P28370 (1個体, 雄, 25.0mm), 19920829; YCM-P29132 (2個体, 雄, 26.4, 27.4mm), 19930830; YCM-P29164 (2個体, 雄, 27.2mm; 雌, 34.2mm); YCM-P34614 (1個体, 雄, 30.2mm; 3個体, 雌, 25.3-36.4mm), 19940902; (加計呂麻島)：YCM-P34167 (2個体, 雄, 27.9, 30.7mm; 1個体, 雌, 28.7mm), 19940828; 沖





**Fig. 1** *Norfolkia thomasi* (New Japanese name: Buti-nisehebiginpo), fresh specimen, a. YCM-P34132, male, 31.3 mm SL, depth 9 m, from off Hamasaki, Kakeroma Is.; b. YCM-P28048, female, 28.3 mm SL, depth 5 m, from Atetsu Bay, Amami-Ooshima Is.

縄県八重山郡(西表島)：URM-P(琉球大学理学部海洋学科)未登録資料(1個体，雌，22.6mm)，19820911。

**記載：**第1背鰭4棘(4棘)，第2背鰭14-15棘(13-16棘)，第3背鰭10軟条(7-10軟条)，臀鰭1-2棘21軟条(2棘17-22軟条)，胸鰭(分枝軟条+不分枝軟条)iii+6+6=12軟条(ii-iii+6-7+6-8=12-15軟条)，腹鰭1棘2軟条(1棘2軟条)，尾鰭分節軟条数6-7+5-6=12(12-13)，側線鱗数(上部有孔側線鱗+下部欠刻側線鱗)11-13+23-26(10-15+18-28)，縦列鱗数38(31-38)，横列鱗数10-11(10-13)，脊椎骨数11+25-26=36-37(11+25-27=36-38)，下顎感覚管の開孔3+2+3(3+2+3)。

体長に対する百分率は，頭長31.6-32.8(28.1-32.6)%以下同様，眼径9.6-10.4(8.5-11.0)，吻長9.0-9.3(5.8-6.5)，両眼間隔1.6-1.9(0.9-2.8)，上顎長13.9-15.0(11.0-15.7)，体高17.9-20.0(15.8-22.0)，体幅13.9-15.7(10.8-14.6)，尾柄長11.0-11.6(10.5-15.1)，尾柄高7.0-7.7(6.1-7.6)，第1背鰭第1棘長10.2-10.6(9.0-12.6)，第1背鰭第2棘長8.6-9.6(8.3-11.2)，第1背鰭第3棘長7.8-8.6(7.8-

-9.6)，第1背鰭第4棘長6.3-7.0(5.8-9.0)，第2背鰭第1棘長8.8-9.3(9.1-11.6)，第2背鰭第5棘長13.0-13.3(13.1-16.9)，第3背鰭第1軟条長14.7-15.9(17.2-18.3)，第3背鰭第5軟条長12.3-13.9(14.2-16.6)，吻端・第1背鰭起部間距離23.6-25.3(22.2-25.9)，吻端・第2背鰭起部間距離33.5-35.7(30.7-35.1)，吻端・第3背鰭起部間距離69.3-72.8(69.7-72.6)，臀鰭第1棘長2.9-4.9(2.2-5.0)，臀鰭第5軟条長10.2-10.9(10.1-12.0)，吻端・臀鰭起部間距離44.4-47.7(42.8-46.9)，胸鰭長28.6-30.8(21.4-24.8)，吻端・胸鰭基部長33.2-35.4(32.8-36.7)，腹鰭第1軟条長21.7-21.9(13.7-18.2)，吻端・腹鰭基部長21.9-24.9(21.4-24.8)，尾鰭長17.9-20.1(19.6-21.5)。

成魚は小型で，採集個体の最大体長は36.4mm。体は細長く後半部は縦扁する。体高は第2背鰭第1-2棘付近が最も高い。頭部は小さく，体長の約32-33%を占める。眼は大きく，やや上部に位置する。両眼間隔域は狭い。眼の前縁部は平滑で，後縁部には微鋸歯がある。頭頂部や両眼間隔域には微小な糸状突起がある。前鼻孔は明瞭な管状で，上縁部は細長い苞状皮弁となって延長し，



先端は分枝しない。両眼の上縁中央には単一で平たい扇状の大きな眼上皮弁があり、先端は分枝しない。両顎は後方へ斜位に伸び、両顎の後端は眼の中央直下に達する。上顎の先端は下顎よりもわずかに前方へ突き出し、上顎の前縁部はわずかに肥厚する。吻長は眼径よりも長く、眼の前方域の傾斜は比較的緩やかである。鰓膜の下端は腹鰭の直前に開く。体側は櫛鱗で被われ、後頭部、頬部と鰓蓋部の上側半分、胸鰭基部と腹部(肛門周辺域を含む)には小さな円鱗がある。頭部の感覚管系はよく発達し、前眼肩甲管と後眼肩甲管はつながって延長し、第1有孔側線鱗に接続する。側線は2列で、上方の有孔側線鱗は主鰓蓋骨始部から始まり11-13枚、その最終鱗は第2背鰭の第11-12棘付近下に達する。上方の有孔側線鱗から縦に2枚の鱗を隔てて下方の欠刻側線鱗が始まり、尾柄後端まで約23-26枚ある(欠刻側線鱗は有孔側線鱗の最終鱗部位より前方から始まることもあり、その場合は25-28枚位になる)。第1背鰭は第1棘が最長で、広げるとわずかに前方に傾斜する。第1背鰭の鱗膜は深く切れこみ、各棘の先端にかかる部分で1本の糸節り状となる。第2背鰭は第4-7棘が最長で、基底長は体長の35-36%を占め、第1背鰭や第3背鰭の基底長よりも長い。臀鰭は第2背鰭の第5、6棘付近直下から始まり、基底長は著しく長く、体長の42-45%を占める。胸鰭は大きく、最終分枝軟条の先端は臀鰭の第12、13軟条付近に達する。腹鰭軟条は肥厚し、第2軟条は長く(体長の22%)肛門付近に達する。腹鰭基部は第1背鰭の起部よりも前方にある。尾鰭は上下縁にやや丸みのある截型で、上葉と下葉のそれぞれ最初の不分枝分節軟条は中央の分枝分節軟条よりも短く約3分の2。尾柄高は体長の7-8%。尾鰭長は頭長よりも短い。

**生鮮時の体色：**頭部と体の地色は灰赤褐色。光彩は橙赤色で強い金属光沢があり、瞳は黒色。鼻管の基部は淡赤褐色で先筒部は透明、先端の皮弁は褐色または淡褐色。眼上皮弁は暗赤褐色で小さな淡色の斑点がある場合もある。吻部と頭頂部位は暗褐色斑や赤褐色斑が不規則に点在する。基本的には眼から上顎前方と上顎後端の方向に走る幅の広い赤褐色の2本の放射帯(波状模様をなす)があり、それぞれの放射帯の間は淡灰色。前鰓蓋骨上と主鰓蓋骨の鰓蓋管開口部の上には淡灰色の小円斑が点在する。主鰓蓋骨中央から下鰓蓋骨付近にかけて1赤褐色斑があるが、斑紋の周縁部はぼやけて不明瞭となる。膜蓋と上下顎骨にも淡赤褐色斑が不規則に並ぶ。鰓条骨部から脇部、鰓膜狭部にかけては淡黄色(黄色味が強い個体もある)。腹鰭(軟条の先端部にかけて)淡赤褐色斑が点

列する個体が稀にある)と腹部は淡灰色。体側には第1背鰭起部付近(第1背鰭直下のものは不明瞭)から尾柄後端にかけて、わずかに傾斜する暗赤褐色の7横帯があり、体側中央から背側にかけての横帯は明瞭であるが、腹側の横帯はむしろ1対の斑点状でそれぞれ背側の1横帯の下に対応してある。腹部を除く体側全体は淡赤褐色の網目状斑で覆われる。第1背鰭の鱗膜上縁(特に第1棘と第3棘間の鱗膜)と基底部は明瞭な黒褐色で、その中間部位は淡赤褐色(第1背鰭の色斑については雌雄差よりも個体差のほうが大きい)。第2と第3背鰭にそれぞれ灰黒色の細い横帯(眼径の約半分)が明瞭なものでは2本ずつあり、鱗膜全体は淡赤褐色で透明な小斑が点在し、各棘や軟条上には赤褐色斑が点列状にある。臀鰭起部から端部までの体側基底部には黒褐色の小斑が9個あり、各小斑から鱗膜の外縁に向かって9条の暗赤褐色の斜帯がある。尾鰭の鱗膜は透明で、全体に黄褐色や赤褐色の斑点や線状模様がある。胸鰭基部には明瞭な2暗赤褐色の円斑があり、大きさは瞳孔より少し小さい。また胸鰭の上半分(主に分枝軟条部分)には褐色の微小斑が点在し、下半分(不分枝軟条部分)には赤褐色の4-5条の横列点状斑がある。

**固定後の体色：**頭部や体側、各鰭条には、生時の体色で説明した赤褐色の特徴ある模様や斑点は淡褐色となって残る。眼は暗灰色。鰓条骨部や鰓膜狭部、腹部にかけての淡黄色は消失し、灰白色となる。第1、2および第3背鰭鱗膜の淡赤色は消失するが、第1背鰭の上縁と基底部の暗褐色部は残る。胸鰭基部には円形の2暗褐色斑が明瞭に残る。腹鰭は灰白色。

**雌雄差：**計数形質には明瞭な雌雄差はないが、色彩や斑紋については雌より雄のほうが派手である。とりわけ第1背鰭~第3背鰭の鱗膜にみられる赤褐色の色斑は雌よりも雄のほうが濃く、雌では透明感が強い。臀鰭の9条の斜帯についても同様である。鰓条骨部位から胸部にかけての橙黄色も雌より雄に顕著。泌尿生殖部位の形態は、雄では臀鰭の直前まで細長い円錐形の突起の先端が伸び、傾斜した円錐状の肛門は生殖突起の前にあり、肛門の表面には放射状のひだがある。雌では肛門と共に幅の広い円錐形突起を形成し、先端部の表面は雄と同様に放射状のひだが多くある。婚姻色による雌雄差は未確認。

**生息状況：**採集場所は水深4-7mの浅海域で(FRICKE, 1994では水深1~20mの範囲で採集記録がある)、珊瑚礁の棚部の天井面や小さな横穴内から採集



された。また干潮時にできる大型のタイドプール内からも採集された。*N. brachylepis* ニセヘビギンボと同所的に採集されることもあるが、個体数は本種のほうが圧倒的に多い。

**分 布**：小笠原諸島母島・奄美大島・加計呂麻島・西表島(本報告)、オーストラリア(ウェスタンオーストラリア・クイーンズランド)・ニューカレドニア・ローヤルティール諸島・フィジー諸島(FRICKE, 1994)。

**備 考**：*N. thomasi* はオーストラリアのヘロン島を模式産地として、WHITLEY (1964)によって *Norfolkia* の1新種として記載された。日本からの採集標本は、HOLLEMAN (1991)、FRICKE (1994)の記載や図とよく一致する。本種は *N. brachylepis* に比較すると採集報告例が少ないが、両種は外観や色彩が類似しているため標本では混同されている可能性が十分にある。*N. thomasi* と *N. brachylepis* は、有孔側線鱗数(11-13 vs. 16-17)や欠刻側線鱗数(23-26 vs. 18-19)、臀鰭軟条数(20-21 vs. 16-18)により識別でき、第1背鰭の斑紋や吻部の長さ(*N. thomasi* は *Norfolkia* 4種のなかで最も吻長

が長い)などでも容易に識別できる。本種は日本初記録種となるが、国内の分布域についてはさらに精査が必要と思われる。

本種には和名が与えられていないため、体の斑紋にちなみ新和名ブチニセヘビギンボを提唱する。

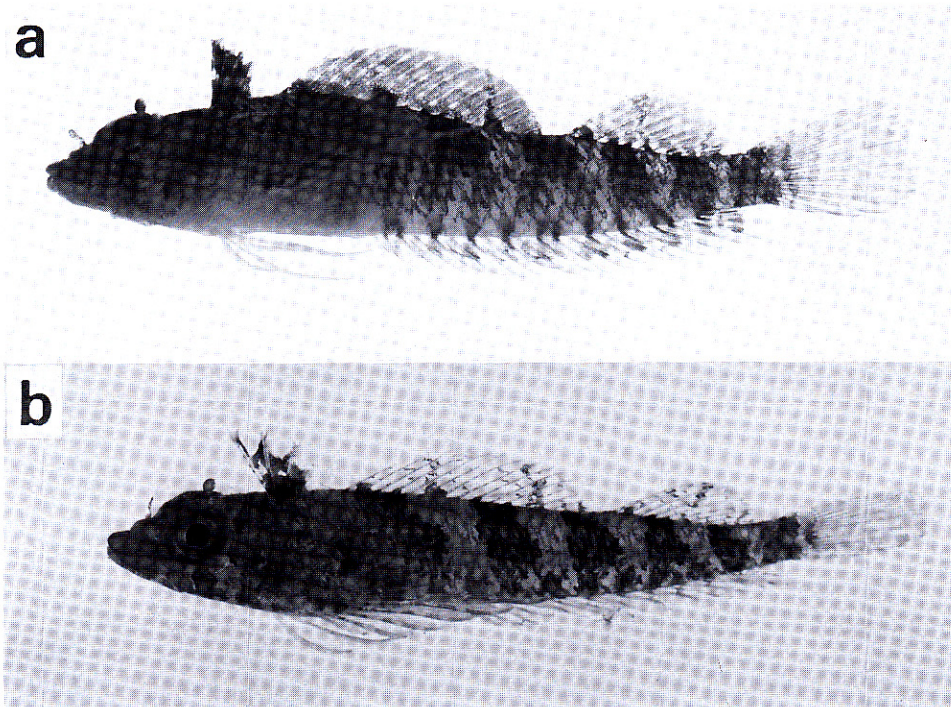
*Norfolkia brachylepis* (SCHULTZ, 1960)

ニセヘビギンボ, *Nisehebiginpo*

(Fig. 2a, b)

*Tripterygion brachylepis* SCHULTZ, 1960: 291, fig. 113 (type loc. Bikini Atoll); HAYASHI, 1993: 948 with fig. (Amami-Ooshima, Ryukyu and Ogasawara Isls.); *Norfolkia springeri* CLARK, 1979: 95 (type loc. Gulf of Elat, Red Sea); HOLLEMAN, 1986: 758, fig. 236.9 (South Africa, Sri Lanka, Taiwan, Philippines, southern Japan).

*Norfolkia brachylepis*: MYERS, 1989: 204, fig. 1e (Christmas Is., Mariana, Marshall, Samoan Isls.); FRICKE, 1991: 340, fig. 3 (Rosemary Isls., western Australia); HOLLEMAN, 1991: 233, fig. 5 (Red Sea, South Africa, western Australia, New Caledo-



**Fig. 2** *Norfolkia brachylepis* (Japanese name: *Nisehebiginpo*), fresh specimen, a. YCM-P25356, Male, 34.9 mm SL, depth 5 m, Kita-kou, Haha-jima Island, Ogasawara Isls.; b. YCM-P34173, female, 45.4 mm SL, depth 9 m, from off Hamasaki, Kakeroma Is.



nia, Marshall Isls.); SHEN & WU, 1994: 23, fig. 15 (Peng-hou, Taiwan); FRICKE, 1994: 465, fig. 104 (western Australia, New Caledonia, Loyalty Isls., Fiji, Marshall Isls.)

**材料**：YCM-P25280 (1 個体, 雌, 26.3mm), YCM-P25356 (1 個体, 雄, 34.9mm), 19910313, 東京都小笠原村, 母島北港, 林 公義・萩原清司採集; YCM-P34173 (1 個体, 雌, 45.4mm), 19940828, 鹿児島県大島郡(加計呂麻島)浜崎, 奄美大島調査団。

**参考標本**：OMNH-P (大阪市立自然史博物館魚類資料) 6274 (1 個体, 雄, 21.0mm), OMNH-P6275, (1 個体, 雌, 23.0mm), 19920727, 東京都小笠原村, 父島宮の浜, 鈴木寿之・細川正富採集。

**記載**：第1背鰭4棘(4棘), 第2背鰭13棘(12-15棘), 第3背鰭9軟条(7-10軟条), 臀鰭2棘18軟条(2棘15-20軟条), 胸鰭(分枝軟条+不分枝軟条) ii - iii + 6 - 7 + 6 - 7 = 15-17軟条(ii - iv + 4 - 7 + 7 = 15-17軟条), 腹鰭1棘5軟条(1棘2軟条), 尾鰭分節軟条数 7 + 5 - 6 = 15, 側線鱗数(上部有孔側線鱗+下部欠刻側線鱗) 16 + 18 - 19 (12 - 19 + 14 - 22), 縦列鱗数 34 - 35 (31 - 37), 横列鱗数 10 - 11 (10 - 12), 脊椎骨数 11 + 25 - 26 = 36 - 37 (11 + 25 - 27 = 36 - 38), 下顎感覚管の開孔 3 + 2 + 3 (3 + 2 + 3)。

体長に対する百分率は, 頭長 31.2 - 33.3 (27.2 - 31.2) % 以下同様, 眼径 8.8 - 11.0 (9.4 - 10.8), 吻長 7.4 - 9.7 (4.8 - 7.3), 両眼間隔 1.7 - 2.6 (2.5 - 3.2), 上顎長 12.2 - 14.3 (12.8 - 13.9), 体高 18.3 - 23.1 (17.3 - 18.8), 体幅 16.3 - 18.3 (8.9 - 19.7), 尾柄長 11.2 - 12.0 (6.6 - 11.2), 尾柄高 7.4 - 8.6 (6.8 - 8.7), 第1背鰭第1棘長 8.6 - 10.4 (9.4 - 15.2), 第1背鰭第2棘長 7.4 - 11.0 (9.0 - 14.8), 第1背鰭第3棘長 6.6 - 7.9 (6.9 - 10.0), 第1背鰭第4棘長 4.9 - 6.4 (4.7 - 6.4), 第2背鰭第1棘長 8.3 - 8.7 (7.3 - 16.0), 第2背鰭第5棘長 11.5 - 16.1 (12.1 - 15.2), 第3背鰭第1軟条長 15.2 - 17.2 (13.6 - 21.2), 第3背鰭第5軟条長 11.4 - 14.9 (10.1 - 14.9), 吻端・第1背鰭起部間距離 24.1 - 24.4 (21.8 - 24.0), 吻端・第2背鰭起部間距離 33.0 - 35.0 (33.4 - 35.2), 吻端・第3背鰭起部間距離 68.5 - 71.1 (68.1 - 72.0), 臀鰭第1棘長 4.5 - 4.9 (4.5 - 10.0), 臀鰭第5軟条長 10.2 - 10.9 (8.2 - 12.0), 吻端・臀鰭起部間距離 44.4 - 47.7 (47.4 - 49.6), 胸鰭長 28.6 - 30.8 (29.2 - 34.4), 吻端・胸鰭基部長 33.2 - 35.4 (32.5 -

33.9), 腹鰭第1軟条長 21.7 - 21.9 (13.7 - 17.9), 吻端・腹鰭基部長 21.9 - 24.9 (21.8 - 23.5), 尾鰭長 17.9 - 20.1 (19.8 - 24.0)。

採集個体の体長範囲は 26 - 45mm。体は細長く後半部はわずかに縦扁する。頭部は小さく, 体長の約 31 - 33% を占める。眼は大きく, やや頂部に位置する。両眼間隔は狭く, 無鱗域には毛状突起が多くある。眼の縁辺部には小突起が多数あり, 特に後縁部には鈍い鋸歯がある。頭頂部や第1背鰭起部前方域, 吻部, 上顎の口唇部には皮弁条の微小な突起が散在する。前鼻孔は明瞭な管状で, 上縁部はやや長い苞状で先端は細く分枝する。両眼の上縁中央には単一で平たい扇状の大きな眼上皮弁があり, 先端は細かく 5 - 6 分枝する。両顎は後方に延び, 斜位。両顎の後端は眼の中央直下をわずかに越える。上顎の先端は下顎よりも前方に突き出す。上顎の前縁部はわずかに肥厚する。吻長は眼径より短く(体長の 7 - 9%), 眼の前方域の傾斜は比較的急である。鰓孔下端は腹鰭の直前に開く。体側は櫛鱗で被われ, 後頭部, 頬部, 鰓蓋部, 胸鰭基部と腹部(肛門周辺域を含む)には小さな円鱗がある。頭部の感覚管系はよく発達し(CLARK, 1979; fig. 1-f), 前眼肩甲管と後眼肩甲管はつながり, そのまま延長して第1有孔側線鱗に接続する。側線は2列で, 上方の有孔側線鱗は主鰓蓋骨始部から始まり 16 - 17 枚, その最終鱗は第2背鰭の基底部後端に達する。上方の有孔側線鱗から縦に 2 - 3 枚の鱗を隔てて下方の欠刻側線鱗が始まり, 尾柄後端まで約 18 - 19 枚ある(欠刻側線鱗は有孔側線鱗の最終鱗部位より前方から始まることもあり, その場合は 18 - 22 枚位になる)。第1背鰭は第1棘が最長で, 広げると前方に傾斜する。雄では第1背鰭の鰭膜が深く切れこみ, 各棘の先端にかかる部分は分枝して糸飾り状となる。第2背鰭は第5 - 7 棘が最長で, 基底長は体長の 35 - 36% を占め, 第1背鰭や第3背鰭の基底長より著しく長い。臀鰭は第2背鰭の第7, 8 棘付近直下から始まり, 基底長は長く体長の 42 - 45% を占める。胸鰭は大きく, 最終分枝軟条の先端は臀鰭の第10軟条付近に達する。腹鰭軟条は肥厚し, 最長の第2軟条は肛門に達する。腹鰭基部は第1背鰭起部より前方にある。尾鰭は上下縁にやや丸みのある截型で, 下葉の分枝分節軟条と不分枝分節軟条は上葉のものよりわずかに短い。尾柄高は体長の 7 - 8% で著しく低い。尾鰭長は頭長よりも短い。

**生鮮時の体色**：頭部と体の地色は灰褐色。光彩は鈍い黄金色で微小な褐色点があり, 瞳は黒色。鼻管は灰暗褐色で先筒部は透明, 先端の皮弁は暗褐色。眼上皮弁は黒



褐色。吻部と頭頂部位は暗褐色斑が不規則に点在する。基本的には眼から上顎前方と上顎後端に向かう放射線の2暗褐色線と、前鰓蓋骨頂部から垂直に下鰓蓋骨部位に向かう1暗褐色線があり、各暗褐色線の幅は瞳孔径に等しい。主鰓蓋骨と膜部、上下顎骨上にも暗褐色斑が不規則に並ぶ。鰓条骨部から鰓膜狭部にかけては淡黄色。腹鰭と腹部は乳白色。体側には第1背鰭起部付近から尾柄後端にかけて、わずかに傾斜する暗褐色の7横帯があり、体側中央から背側にかけての横帯は明瞭であるが、背側の各横帯に対応して腹側の横帯は1対の不明瞭な斑点状をなす。腹部を除く体側全体は暗褐色の網目状斑で覆われる。第1背鰭の第2棘と3棘間の鰭膜には楕円型の1黒斑があり、他の鰭膜は淡赤色(雄では1黒斑が大きく、鰭膜の赤色が濃い)で、全体に暗褐色の斑点が不規則にある。第2と第3背鰭には暗褐色の雲状斑(つながって帯状にもなる)があり、鰭膜全体は淡赤色で透明な小斑が点在し、各棘や軟条上には褐色斑が点列状にある。臀鰭起部から端部までの体側基底部には黒褐色の楕円斑が7個あり、各楕円斑から鰭膜の外縁に向かって暗赤褐色の斜帯がある。尾鰭の鰭膜は透明で、全体に暗赤褐色の斑点や線状模様がある。胸鰭の上半分(主に分枝軟条部分)には褐色の微小斑が点在し、下半分(不分枝軟条部分)には暗褐色の5-6条の横列点状斑がある。

**固定後の体色:** 頭部や体側、各鰭条には、生時の体色で説明した暗褐色の特徴ある模様や斑点は退色気味ではあるが残る。眼は暗灰色。鰓条骨の膜部と鰓膜狭部にかけての淡黄色は消失する。第1, 2および第3背鰭鰭膜の淡赤色は消失するが、第1背鰭の楕円型の1黒斑は明瞭に残る。腹鰭は灰白色。

**雌雄差:** 雄の第1背鰭棘にある1黒斑は雌よりも大きく、第1~3背鰭の鰭膜にみられる暗褐色斑や淡赤色部も雌より雄のほうが色彩が濃く、雌では透明感が強い。泌尿生殖部位の形態は、雄では臀鰭の直前まで細長い円錐形の突起の先端が延び、やや傾斜した円錐形の肛門は生殖突起の前にあり、肛門の表面には放射状のひだがある。雌では肛門と共に幅の広い円錐形突起を形成し、先端部の表面は雄と同様な放射状のひだが多くある。婚姻色による雌雄差は未確認。

**生息状況:** 水深10-15mの珊瑚質岩礁の棚部の天井面や小さな横穴内から採集された。

**分布:** 小笠原諸島父島, 母島・奄美大島・加計呂麻

島(本報告), 台湾澎湖島 (SHEN & WU, 1994)・ウェスタンオーストラリア・ニューカレドニア・ローヤルティエ諸島・フィジー諸島・マーシャル諸島・紅海・南アフリカ (FRICKE, 1994)。本種はインド-西部太平洋海域の沿岸部に広く分布する。

**備考:** 採集標本は、一部の形質を除いて SCHULTZ (1960) の原記載や、CLARK (1979), HOLLEMAN (1991), FRICKE (1994) の記載や図とよく一致する。状態のよい標本では、第1背鰭の鰭膜の切れこみが深く、各棘条の先端には鰭膜が変形した糸状の分枝突起が明瞭(雌より雄に顕著)にあり、第2背鰭棘の先端にも微小ではあるが同様な突起が認められる。しかし原記載をふくむ他の記載では本特徴の記述や図示されたものはない。この形質は、欠損しやすい形質ゆえと考えられる。

益田・小林(1994)は、ニセヘビギンボ *Trypterygion brachylepis* (p. 311, fig. 4, 沖縄本島で撮影) とヒメギンボ属の1種 (p. 311, fig. 6, 宮古島で撮影) をカラー生体写真で掲載しているが、体側や鰭条の模様から判定して、これらの写真個体はいずれも *Norfolkia* ではないと思われる。一方同じ頁に掲載されているセダカヘビギンボ *Enneapterygius tutuilae* (p. 311, fig. 3, 宮古島で撮影) は、第1背鰭や眼下部の斜帯、体側の斑紋、吻長などの特徴から、本種は *Norfolkia thomasi* (プチニセヘビギンボ) に同定されると思われる。しかし写真による記録では確実な同定ができないので、宮古島での撮影資料については、本報の *N. thomasi* のシノニムリストと分布地の記録は行わないことにした。

## 引用文献

- CLARK E. 1979. Red Sea fishes of the family Tripterygiidae with descriptions of eight new species. *Israel Jour. Zool.*, **28**(2/3): 65-113.
- FOWLER H.W. 1953. On a collection of fishes made by Dr. Marshall Laird at Norfolk Island. *Trans. Roy. Soc. New Zealand*, **81**, Pt. 2: 257-267.
- FRICKE R. 1991. *Ceratobregma striata*, a new triplefin (Tripterygiidae) from northern Australia, and a record of *Norfolkia brachylepis* from western Australia. *Jap. Jour. Ichthyol.*, **37**(4): 337-343.
- FRICKE R. 1994. *Tripterygiid fishes of Australia, New Zealand and the southwest Pacific Ocean* (Teleostei). Königstein Koeltz Scientific Books: ix+585pp.
- HANSEN P.E.H. 1986. Revision of the tripterygiid

- fish genus *Helcogramma*, including descriptions of four new species. *Bull. Mar. Sci.*, **38**(2): 313–354.
- 林 公義 1993. ギンボ亜目 Blennioidei・ヘビギンボ科 Tripterygiidae, 日本産魚類検索—全種の同定—, 944–948, 1351. 東海大学出版会.
- HOLLEMAN W. 1982. Three new species and a new genus of tripterygiid fishes (Blennioidei) from the Indo-West Pacific Ocean. *Ann. Cape Prov. Mus. (nat. Hist.)*, **14**, Pt. 4: 109–137.
- HOLLEMAN W. 1991. A revision of the tripterygiid fish genus *Norfolkia* Fowler, 1953 (Perciformes: Blennioidei). *Ann. Cape Provincial Mus. (nat. Hist.)*, **18**, Pt. 11: 227–243.
- MYERS R.F. 1989. *Micronesian reef fishes. A practical guide to the identification of the coral reef fishes of the tropical central and western Pacific*. Barrigada, Guam (Coral Graphics): vi+298pp., 144 pls.
- RANDALL J.E., SMITH C.L. and FEINBERG M.N. 1990. Report on fish collections from Rapa, French Polynesia. *Amer. Mus., Novitates*, (2966): 1–44.
- ROSENBLATT, R.H. 1959. A revisionary study of the blennioid fish family Tripterygiidae. Doctoral Dissertation, Univ. California: X+376pp.
- SCHULTZ L.P. 1960. Family Clinidae: Scaled Blennies, subfamily Tripterygiinae. SCHULTZ and Collaborators Eds. *Fishes of the Marshall and Marianas Islands*. Vol.2, Families from Mullidae through Stromateidae. *Bull. U. S. Natn. Mus.*, 202: 1–438, pls 75–123.
- SHEN S.C. and WU K.Y. 1994. A revision of the tripterygiid fishes from coastal waters of Taiwan with descriptions of two new genera and five new species. *Acta Zoologica Taiwanica*, **5**(2): 1–32.
- 富山一郎 1950. ヘビギンボ *Enneapterygius etheostoma* (JORDAN et SNYDER) に就いて. *動物雑*, **59**(11): 255.
- 富山一郎 1951. ヒメギンボ *Enneapterygius bapturnus* (JORDAN et SNYDER) に就いて. *動物雑*, **60**(4): 89.
- 益田 一・小林安雅 1994. 日本産魚類生態大図鑑: 45 + 465 pp. 東海大学出版会.
- WHITLEY G.P. 1964. Fishes from the Coral Sea and the Swain Reefs. *Rec. Austral. Mus., Sydney*, **26**(5): 145–195, pls 8–10.